



日進北小だより

令和8年2月2日 2月号 第10号
電話 048 (663) 1842 FAX 048 (663) 9884



<https://nisshinkita-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標：心身ともに健康で、自ら学び、自ら考え、判断し、行動できる子どもを育成する
～自分一 すてきなあいさつ 日北っ子～

児童の学校生活の様子を、
随時更新し掲載しています。
どうぞ、ご覧ください。

「成功のなぜ」言えるかな？ ～ 子ども達の「たい」を大切に ～

校長 寺越 崇征

新年が明けて、あっという間に1か月が過ぎました。明日2月3日は節分で、翌4日は立春です。

よく「暦の上では春ですが・・・」と、まだまだ続く寒さを案じる言葉が使われます。しかし、日ごとの平均気温（気象庁／1991～2020年のデータ）を調べてみると、実は寒さのピークは1月下旬ころ。立春の時期を境に平均気温は上がっていきます。季節の変わり目を的確にとらえた先人の知恵には驚かされます。

あくまでデータの平均なので、急な冷え込みや降雪には油断禁物ですが…。進級や進学までの残り2か月、一人ひとりの子どもたちが年度末のまとめをしっかりと行い、「心温かな春」を迎えられるよう、一日一日を大切に支えてまいります。

さて、本校では今年度「自ら問いを立て、適切な解決手段を用いて、自分なりの答えを見つけることができる児童の育成」を掲げ、①自分で課題を決める、②自分の言葉で表現する、③「たい」(want to)があふれる学びにする、の3点を重点的に指導法の研究に取り組んでまいりました。自分と友達の力で主体的に協働的に学習を深める力を身に付けられるよう全学級で授業実践を行い、授業の中で子ども同士が考えを共有できる時間を設けたり、協働で問題を解決できるよう学習の流れを工夫したりしてきました。

右のグラフは、2学期の末のアンケート結果です。ほとんどの子が「友達の考えを聴くこと」が好きで、7割の子が「自分の考えを発表すること」が好きだと答えています。これまでの研究の成果が子どもたちの学習意欲となって表れていることに嬉しく思います。教室での学習の様子をみると、発表していない子も、独りで黙々と考えを記述していたり、じっと友達の考えに耳を傾けていたり、何も考えていないというわけではないことが分かります。どんどん発表したい子がいて、それをじっと聴きたい子がいて、反論したい子がいて、複数の考えを整理してまとめた子がいて、調べたい子がいて…。これらの多様な「たい」が協働的な学びの豊かな土壌をつくっています。

一方で、発表が嫌いだと答えた3割の子の存在も大切にしたいと考えています。「自分の考えを自分の中だけで完結させたい」という思いや「相手の考えを尊重したい」という優しさを認めつつ、いかにして「自分の考えを相手に伝えてみたい」という小さな意欲を育てていくか。

先日、元FC東京社長・阿久根謙司氏のコーチング論の講演を聴く機会がありました。そこで述べられていた、子どもの自己肯定感を高める1つの方法として「成功のなぜ」の言語化を繰り返すことが有効である、という話が、このヒントになるのではないかと考えました。できなかったことを指摘するのではなく、できるようになったことを褒め、「すごい！どうしてできたの？」と問いかけます。できるようになった理由を自分の言葉で言語化させることで、その行動を意識的に再現できるようになります。そしてそれが「次もやってみたい」という自発的な行動へつながるのです。

この「成功のなぜ」の問いかけを、ぜひ学校と家庭と地域とで共に取り組んでみませんか。はじめは「なんとなくできた」とか「分からないけどできた」かもしれません。それでも、どんな小さな理由でも認め「だからできたんだね」と共感してあげてください。その繰り返しの中で、子どもたちはきっと自分自身を上手に見つめ直すことができるようになり、新たな自分に気付いたり、自分の思いを表現したりすることもできるようになっていくでしょう。

日北っ子たちが、「成功のなぜ」を語る中で、新たな「自分一」に出会い、新たな「たい」をどんどん生み出し出していくことを目指して、私たち日北教職員の研修はまだまだ続きます。

日北っ子たちが、「成功のなぜ」を語る中で、新たな「自分一」に出会い、新たな「たい」をどんどん生み出し出していくことを目指して、私たち日北教職員の研修はまだまだ続きます。

